

第22回群馬県図書館大会を開催します

群馬県図書館協会では、県内図書館、学校図書館関係者及び図書館に関心のある県民が一堂に会し、社会の進展・変化に応じた図書館のあり方について考えることを目的に、以下のとおり第22回群馬県図書館大会を開催します。

1. 大会テーマ 『紙と電子、その先へー誰もが読書を楽しめる社会を目指してー』
2. 日 時 令和8年11月26日（木）10：30～16：40
3. 場 所 群馬県立図書館 3階ホール（群馬県前橋市日吉町1-9-1）
4. 内 容
 - 【午前の部】10：30～11：30（受付10：00～）
（1）式典・表彰式
 - 【午後の部】12：45～16：40（受付12：15～）
（1）第1部 基調講演【ICTを用いた読書の支援と促進
～認知科学・デジタル読書体験から見えてきたこと～】
講師：柴田 博仁 氏（群馬大学大学院情報学研究科教授）
 - （2）第2部 基調講演【紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして】
講師：成松 一郎 氏（㈲読書工房代表・専修大学文学部講師）
 - （3）第3部 紙と電子の体験会
協力：（株）紀伊國屋書店、（株）図書館流通センター、（株）丸善雄松堂、群馬県立点字図書館、甘楽町図書館、桐生市立図書館
 - （4）第4部 トークセッション【誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）】
登壇者：柴田 博仁 氏、成松 一郎 氏
ファシリテーター：群馬県立図書館長
5. 参 加 費 無料
6. 申 込 方 法 以下の URL または二次元コードから11月4日（水）までにお申し込みください。
<https://logoform.jp/form/9cfD/22taikai>
※電話、FAX等での申し込みは受け付けておりません。
7. そ の 他 式典・表彰式の参観を希望する方および動画配信を希望する方も、必ず申込フォームから申込を行ってください。
8. 問 合 せ 先 群馬県図書館協会事務局
（群馬県立図書館 企画・地域協力係 電話：027-231-3008）



第22回

群馬県

図書館大会

紙と電子、その先へ

—誰もが読書を楽しめる社会を目指して—

2026 11/26 木 10:30-16:40

会場：群馬県立図書館 3階 ホール

図書館に関心のある方をはじめ、どなたでも参加できます



午前の部

式典・表彰式

10:30～11:30（受付10:00～）

午後の部

基調講演・体験会 12:45～16:40（受付12:15～）

第1部 基調講演

ICTを用いた読書の支援と促進

～認知科学・デジタル読書体験から見えてきたこと～

講師：柴田 博仁 氏（群馬大学大学院情報学研究科教授）

第2部 基調講演

紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして

講師：成松 一郎 氏（㈲読書工房代表・専修大学文学部講師）

第3部 紙と電子の体験会

第4部 トークセッション

誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）

申込×切

11/4(水)

参加費無料

お申込みは予約フォームから

<https://logoform.jp/form/9cfD/22taikai>

午前の部の参観、動画配信の申込みもこちら



お問い合わせ先

群馬県図書館協会事務局（県立図書館 企画・地域協力係 担当：飯塚、橋本） ☎027-231-3008

主催：群馬県図書館協会

後援：群馬県教育委員会

午後の部 基調講演・体験会 12:45～16:40（受付12:15～）

第1部 基調講演

ICTを用いた読書の支援と促進

～認知科学・デジタル読書体験から見えてきたこと～

講師：柴田 博仁（しばた ひろひと）氏

群馬大学大学院 情報学研究科 教授



専門は認知科学とユーザインタフェースデザイン。読み書きの理解とICT支援を目指す。2003年、東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了。博士（工学）。富士ゼロックス株式会社 研究主幹、東京工科大学 兼任講師、大妻女子大学 非常勤講師、人工知能学会理事、日本画像学会フェローなどを歴任。2020年より群馬大学 社会情報学部教授。2026年4月より現職。文部科学省デジタル教科書に関する有識者会議のメンバー。

著書に『ペーパーレス時代の紙の価値を知る』（産業能率大学出版部, 2018）、『Why digital displays cannot replace paper』（Springer, 2020）、『電子書籍時代の紙の本の価値』（産業能率大学出版部, 2026）。

趣味は温泉、散歩、日本酒。夢は前橋での本のまちづくり。

読書はなぜ必要か。今後の読書推進はどうあるべきか。本は紙で読むべきか、デジタルで読むべきか。認知科学の実験や長期にわたるデジタル読書体験から見えてきたことを踏まえて、こうした問いに答える。没入感をもたらすVRでの読書、本の感想を共有して人とつなぐ読書SNSなど、研究室で試みている研究も紹介。

第2部 基調講演

紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして

講師：成松 一郎（なりまつ いちろう）氏

（有）読書工房代表、専修大学講師、編集者・ライター



1961年神奈川県横須賀市生まれ。学習院大学卒業後、横浜国立大学教育学部臨時教員養成課程修了。

いくつかの出版社勤務を経て、2004年読書工房を設立。おもな著書に『みんなでつくる「読書バリアフリー」—だれもが読める本のかたち』14歳の世渡り術（河出書房新社）、『五感の力でバリアをこえる—わかりやすさ・ここちよさの追求』ドキュメントUD（大日本図書）、『読書バリアフリーサポート入門—誰もが読書を楽しめる社会へ』（共著・読書工房）ほか。

2030年からデジタル教科書が学校現場に入ることを契機に、新聞やネット上で、「デジタルか紙か」といった議論が盛んにおこなわれている。読書にバリアのある人の特性やニーズは多様であり、本来は当事者（あるいは当事者をサポートしている人）が複数の選択肢の中から、その人にあった読書スタイルを選ぶ、あるいは併用することが重要であるというテーマについて話してもらう。

第3部 紙と電子の体験会

バリアフリー書籍関連展示、電子書籍体験

協力団体 群馬県立点字図書館、甘楽町図書館、桐生市立図書館

協力業者 （株）紀伊國屋書店、（株）図書館流通センター、丸善雄松堂（株）

第4部 トークセッション

誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）

登壇者 柴田博仁氏、成松一郎氏

ファシリテーター 群馬県立図書館長

第22回群馬県図書館大会 開催要項

- 1 大会テーマ 紙と電子、その先へ ―誰もが読書を楽しめる社会を目指して―
- 2 趣 旨 近年、電子書籍の普及により、私たちの読書環境は大きく変化している。一方で、紙の本ならではの魅力や価値も改めて見直されており、紙と電子は対立するものではなく、それぞれが特性を生かしながら共存する時代を迎えている。
また、電子書籍は文字の拡大や読み上げ機能などにより、高齢者や視覚に障害のある方をはじめ、多くの人々の読書を支える手段として期待されている。
本大会では、紙の本と電子書籍それぞれの魅力や役割について考えるとともに、誰もが読書を楽しめる社会の実現に向けて、図書館に求められる役割や可能性について考える機会とする。
- 3 主 催 群馬県図書館協会（群馬県立図書館、群馬県公共図書館協議会、群馬県大学図書館協議会、群馬県高等学校教育研究会図書館部会、群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会）
- 4 後 援 群馬県教育委員会
- 5 日 時 令和8年11月26日（木）10時30分～16時40分
- 6 会 場 群馬県立図書館 3階ホール（前橋市日吉町1-9-1）
- 7 動画配信 午後の部の一部に限り、アーカイブ配信を行います。※要事前申込
- 8 内 容
 - 【午前の部】 10時30分～11時30分（受付：10時～）
 - (1) 式典・表彰式
 - 【午後の部】 12時45分～16時40分（受付：12時15分～）
 - (1) 第1部 基調講演 演題：ICTを用いた読書の支援と促進
～認知科学・デジタル読書体験から見てきたこと～
講師：柴田 博仁 氏（群馬大学大学院情報学研究科教授）
 - (2) 第2部 基調講演 演題：紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして
講師：成松 一郎 氏（有読書工房代表・専修大学文学部講師）
 - (3) 第3部 紙と電子の体験会
協力：（株）紀伊國屋書店、（株）図書館流通センター、（株）丸善雄松堂、
群馬県立点字図書館、甘楽町図書館、桐生市立図書館
 - (4) 第4部 トークセッション 演題：誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）
登壇者：柴田 博仁 氏、成松 一郎 氏
ファシリテーター：群馬県立図書館長

- 9 参加対象 図書館に関心のある県民、県内公共図書館（室）・大学図書館・学校図書館関係者等
- 10 参加費 無料
- 11 申込方法 10月14日（水）から11月4日（水）までに、以下の URL または二次元コードからお申込みください。
<https://logoform.jp/form/9cfD/22taikai>
※ 電話、FAX 等での申し込みは受け付けておりません。
- 12 その他 式典・表彰式の参観を希望する方および動画配信を希望する方も、必ず申込フォームから申込を行ってください。
- 13 問合せ先 群馬県図書館協会事務局
(県立図書館 企画・地域協力係 担当：飯塚、橋本 電話 027-231-3008)

